

AREA Report 470

フィリピン投資環境レポート： ダバオ編 パート 1

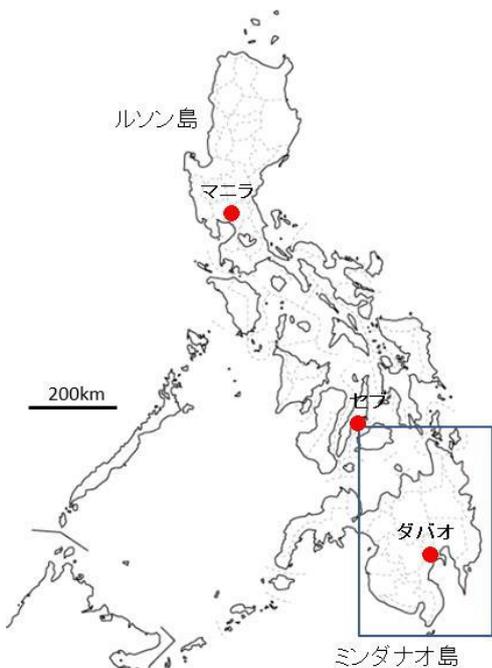
三菱東京UFJ銀行 国際業務部

本レポートでは、近年日系企業の関心が高まっているフィリピン南部ミンダナオ島のダバオ周辺の投資環境について、主要工業団地の最新データを掲載しています。進出検討時の参考資料としてご活用ください。

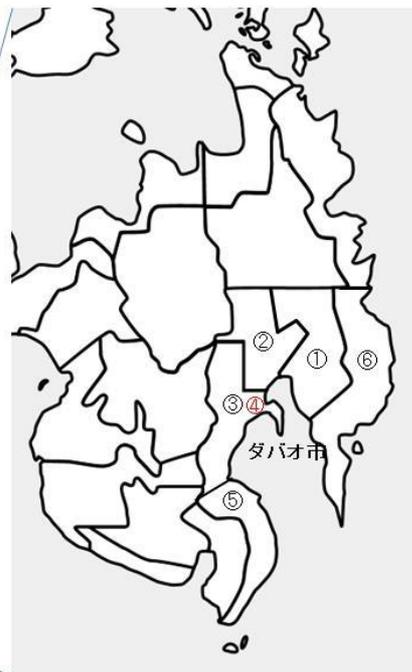
ダバオ周辺には複数の工業団地があります。最新設備を備えたコンテナ港が隣接した工業団地もあり、ミンダナオ産の果物の輸出などに活用されています。

ダバオ周辺は、労働力が豊富かつマニラ首都圏近郊比労働コストは低くなっています。BPO 産業も注目されるエリアです。日系企業では大阪ガス、興和（以上、活性炭製造）、住友商事、伊藤忠商事、ナカシン冷蔵（以上、フルーツなどの加工や輸出）、ナカヤマ（建築資材製造）などが進出しています。

【フィリピン全図】



【ミンダナオ島】



【ダバオ地方エリア区分】

- ① コンポステラバレー
- ② ダバオ・デル・ノルテ
- ③ ダバオ・デル・スル
- ④ ダバオ市
- ⑤ ダバオ・オクシデンタル
- ⑥ ダバオ・オリエンタル

（出所）各種資料より三菱東京UFJ銀行国際業務部作成

《目次》

I. ダバオ地方の概況	… p 3
1. ダバオ市概観	… p 3
2. 人口	… p 3
3. 経済規模	… p 4
4. 1人当たり GDP 額、世帯数	… p 4
5. 自然環境、主要産業、治安、インフラ	… p 4
6. 主要進出日系企業	… p 5
7. ダバオの投資環境に関するコメント（ミンダナオ日本人商工会議所）	… p 5
II. ダバオ市周辺の工業団地	… p 7
1. 主要工業団地一覧	… p 7
2. ダバオ市周辺の工業団地	… p 8
※ 各工業団地の番号は巻末の地図の工業団地番号に対応している。	
(1) アンフロ工業団地（ANFLO Industrial Estate）	… p 8
(2) イホ工業団地（Hijo Industrial Estates）	… p 12
(3) シウダデス・ビジネス・パーク（Ciudades Business Park）	… p 14
3. 現地進出日系企業のコメント	… p 15
III. 三菱東京UFJ銀行フィリピン拠点のご案内	… p 17
付録： ダバオ市周辺工業団地地図	… p 18

I. ダバオ地方の概況

1. ダバオ市概観

フィリピン南部ミンダナオ島の南東に位置するダバオ市は、ミンダナオ島の 2,500 万人規模市場、および 5 億 6,000 万人規模の BIMP-EAGA と称される東アセアン成長地域(ブルネイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン)市場へのアクセスが可能な戦略的な場所に位置している。

ダバオ国際空港は、国内線で主要都市を毎日結ぶ、フィリピンでも指折りの発着便数を誇る新空港である。ダバオ市は東アセアンへの玄関口でもあり、シンガポールやインドネシアに直行便が飛んでいる。ダバオ市は地域の中心としての役割のみならず、南部フィリピンやミンダナオ島を業務の対象範囲としている政府機関ならびに民間機関の本部・本社が置かれている。

また、ダバオ市周辺にはフルーツ農園が多数あり、多くのフルーツが生産されている。バナナの輸出地としてはアジア最大級の規模を誇る。異国フルーツの代名詞ドリアンの産地としても名高い。その他、デザートフルーツのザボン、マンゴー、マンゴスチン、ランブータン、イチゴ、ランサ、パイナップルが名産品になっている。(以上、ダバオ市資料を参考に作成)

2. 人口

ダバオ地方の人口は 489 万人(2015 年、以下同様)、ダバオ地方の中心都市ダバオ市の人口は 163 万人。過去 15 年で 4 割以上増えている。

ダバオ市には、20 世紀の初頭には日本人約 2 万人が居住し、麻(アバカ麻)の栽培を行っていた。現在も多くの日系人が居住している。また、物価がフィリピン国内の他の地域(マニラ首都圏やセブ)より安いことなどから、近年、移住する日本人高齢者も増加しており、現在、日本人 800 名程度が居住している。

ダバオ地方の人口

(単位：人)

	1990年 (a) (5月1日現在)	2000年 (5月1日現在)	2015年 (b) (8月1日現在)	増減 (b-a)
ダバオ地方合計	2,933,743	3,676,163	4,893,318	1,959,575
① コンポステラバレー	466,286	580,244	736,107	269,821
② ダバオ・デル・ノルテ	590,015	743,811	1,016,332	426,317
③ ダバオ・デル・スル (ダバオ市を除く)	632,798	504,289	632,588	-210
④ ダバオ市	849,947	1,147,116	1,632,991	783,044
⑤ ダバオ・オクシデンタル	-	254,512	316,342	-
⑥ ダバオ・オリエンタル	394,697	446,191	558,958	164,261

(ご参考)

セブ市	718,821	866,171	922,611	203,790
-----	---------	---------	---------	---------

(出所) フィリピン統計局資料より三菱東京 UFJ 銀行国際業務部作成

3. 経済規模

フィリピン経済に占めるダバオ地域の経済規模は4.2%、地域のGDP額は5,638億ペソ（約1兆3,000億円。2015年の値、以下同様）である。地域GDP額は過去5年で約5割増加している。

ダバオ地方の経済規模（域内GDP額）

	2010年 (億ペソ)	2015年 (億ペソ)	増加率 (%)	全体に占める 比率(%)
フィリピン全体のGDP額	90,035	133,073	47.8	100.0
首都圏（NCR）のGDP額	32,248	50,478	56.5	37.9
ダバオ地方の域内GDP額	3,752	5,638	50.3	4.2

（出所）フィリピン統計局資料より三菱東京UFJ銀行国際業務部作成

4. 1人当たりGDP額、世帯数

ダバオ地方の1人当たりGDP額は約2,258米ドルである。フィリピン全体の値2,605米ドルより低くなっている。世帯数は約100万世帯である。

1人当たりGDP額の比較

	2010年 (ペソ)	2015年 (ペソ)	増加率 (%)	米ドル換算 (米ドル)
フィリピン全体	97,227	131,026	34.8	2,605
首都圏（NCR）	271,255	398,985	47.1	7,932
ダバオ地方	83,721	113,597	35.7	2,258

（出所）フィリピン統計局資料より三菱東京UFJ銀行国際業務部作成

世帯数などの比較（2012年）

	世帯数	平均所得額 (ペソ)	平均支出額 (ペソ)	貯蓄額 (ペソ)
フィリピン全体	21,426,000	235,000	193,000	31,000
首都圏（NCR）	2,917,000	379,000	325,000	54,000
ダバオ地方	1,078,000	194,000	156,000	38,000

（出所）フィリピン統計局資料より三菱東京UFJ銀行国際業務部作成

5. 自然環境、主要産業、治安、インフラ

ダバオ市には台風の上陸が少ないため、家屋の損壊が少なく、住民の生活の安定に寄与している。台風による農作物の生育への影響が少ないことは、ミンダナオにおける農産業の発展にもプラスの影響を与えている。

ミンダナオの主要産業は農業である。熱帯作物（フルーツ）の収穫が多く、現地では、これらの加工・輸出にビジネスチャンスがある。一方、海産物については、乱獲の影響で厳しい環境となっている模様。

ダバオ市の治安は、ドゥテルテ大統領がダバオ市長であった時代（1998～2016年、途中空きあり）に大幅に改善した。現在もダバオ市の境では不審者の侵入がないよう警備がなされている。

ダバオ市から離れて郊外に行くと、道路の舗装状況はいまひとつという道も多く、インフラ投資の余地は大きい。電力事情は改善中とのことであるが、過去停電が多かったことから、自家発電装置を保有している製造業は多い。

不動産価格は上昇中。高級ホテルやコンドミニアムの建設計画がある。

6. 主要進出日系企業

ダバオ周辺には、大阪ガス、興和（以上、活性炭製造）、住友商事、伊藤忠商事、ナカシン冷蔵（以上、フルーツなどの加工や輸出）、ナカヤマ（建築資材製造）などが進出している。

豊富な農産物の加工・輸出を行っている企業が多い。

7. ダバオの投資環境に関するコメント（ミンダナオ日本人商工会議所）

ダバオ周辺で企業活動をしておられる日系企業の集まりであるミンダナオ日本人商工会議所で、ダバオの投資環境に関するお話を伺った。以下に概要を記載する。

➤ ダバオの投資環境概観

- ✓ ミンダナオの魅力はグローバルで活躍できる人的資源、鉱物資源、観光リゾート資源が豊富なこと、台風等の影響が少ない農業に適した天候である。日本へコンテナ輸出が可能な港も整備されている。PEZAの認定を受けた工業団地も民間企業主導で開発されており、日系企業受入の準備が整いつつある。
- ✓ ミンダナオは、日本にとってグローバル化が急激に進むアジアにあって唯一残された地域ともいえるのではないだろうか。ミンダナオはルソンと同程度の面積を有しているものの、日系企業にとっての位置付けには天と地ほどの差がある。
- ✓ 治安を気にして、ミンダナオを視察したことがないという日系企業も多い。しかし、当地で企業を運営している者の意見としては、海外の異文化を理解し、それなりのリスクがあるということを常に心に留めて行動すれば、当地で治安に対し不安を感じることはない。

➤ 産業、人材

- ✓ 一次産業、特に農業は有望。農産品に関連する企業にはビジネスチャンスがある。熱帯作物（マンゴーやパイナップルの加工）で成功している企業もある。一方、漁業は乱獲で将来性がないと思う。マレーシアやインドネシア向けの輸出にも距離が近い。

- ✓ 日系企業がダバオに進出を検討する場合、高度人材を活用する企業が向いている。マニラよりダバオの方が人は集めやすい。今はダバオに職がないので、マニラやセブに出て行っている人材が多い。ミンダナオにも BPO は増えている。
- ✓ 三次産業については、ホテル産業は伸びるだろう。ホテルについては、タイのデュシタニが初の 5 スターホテルを建設する。ホテルはビジネスマン向け、コンドミニウムは他の倍の価格で富裕層向けである。日系のホテルもダバオへの投資を考えている。観光については、日本人向けはまだ早い。セブでなく何故ダバオかというプロモーションができていない。
- ✓ 最近 IT 系企業からのダバオ進出に関する問合せが多い。また、軽工業や食品関連の会社などからの問合せもある。セブの工業団地に空きスペースがなくなっているため、セブからダバオへの進出を検討している日系企業もある。

➤ インフラ、労働力など

- ✓ ミンダナオの電力供給量状況は改善されており 2022 年までは過剰供給となる一方、2022 年以降は新規の発電施設の認可が降りておらず、長期的には供給不足が予想され、投資上のネックとなる。
- ✓ ロジスティクスもネックである。NYK、K-Line は就航しているが、日本までは 11～19 日かかる。なお、港が混むことはない。主要港としてササ港がある。工業団地では、特にアンフロ工業団地には、独自の港があり NYK、K-Line が就航している。
- ✓ 国内の海上運賃は割高。マニラ～日本、マニラ～ダバオのコンテナ輸送料金は同程度の金額である。
- ✓ 裾野産業がないのも製造業の進出上の留意点である。必要な部材があれば、一緒に進出してくる必要がある。
- ✓ 人件費はマニラより安い。人の気質は、マニラよりおおらか、ゆっくりとしている。
- ✓ テロは 2012 年までは気になっていたが、今はほとんど発生していない。外務省の安全情報ではミンダナオにおいて、ダバオ、ジェネラル・サントス、カガヤン・デ・オロの 3 都市は、レベル 1 とマニラと同レベルの安全度である。（ダバオ市ではタクシーに乗っても安全である）。特にダバオ市内では NPA（フィリピン新人民軍、フィリピン共産党の軍事組織）の活動がない。イスラム系過激派の脅威もない。なお、東ダバオ州およびミンダナオ島の北方では、過激派のターゲットになるケースがある。
- ✓ 麻薬取引は目に見えて減っている。
- ✓ 渋滞はひどくなっている。現在、日中の人口 200 万人、居住人口は 150～160 万人に増え、車が増えている。なお、車は日本車、中古車、韓国車の順で人気。
- ✓ ミンダナオ国際学校がフィリピン人に日本語教育を行っている。レベルが高い。また、日本人会も日本語教育をしている。日本人の子どもがダバオに来た場合は、現地校に通うことになる。
- ✓ 日本人はミンダナオに 1,500 名、ダバオに 800 名ぐらいいる。ダバオには退職者が多い。
- ✓ ダバオの不動産価格は上昇している。例えばダバオ市中心部から少し離れた土地の例では、2004 年 1,500 ペソ/㎡から現在 17,500 ペソ/㎡になっており、12～13 年で 12～13

倍に上昇している。フィリピンの地場小売企業が土地を購入するなどの動きも土地価格上昇につながっている。

- ✓ ミンダナオ島のジェネラル・サントス市は、8車線道路が整備されるなど、今後の発展が期待される。市長は民間出身の方。
- ダバオ周辺の工業団地の特徴について
 - ✓ アンフロ工業団地には港あり。PEZA 認定。
 - ✓ イホ工業団地は環境と観光に優れる。PEZA 認定。
 - ✓ シウダデス・ビジネス・パークは住宅開発、商業にも展開している。PEZA 認定。
 - ✓ 以上の3つともバナナプランテーションで財をなした地元の企業グループが運営している。このほか、日系工業団地で PEZA を申請中なのが日本のナカヤマが開発中の工業団地。ダバオから南に1時間のところにある。

II. ダバオ市周辺の工業団地

1. 主要工業団地一覧

ダバオ市周辺には、バナナ等の熱帯作物輸出で成長した地場企業が開発した工業団地がある。以下、その中から3カ所を掲載する。3つとも PEZA 認定工業団地であり税制優遇が受けられる。

製造業の進出地として適するのは、アンフロ工業団地とイホ工業団地である。特にアンフロ工業団地は、ダバオ市内から通勤圏であり、近代的なコンテナ港が至近距離にある。

シウダデス・ビジネス・パークは、ダバオ市に最も近い場所に立地している。IT 産業、BPO 向けのビジネス・パークである。製造業の進出には適さない。

ダバオ市周辺の主要工業団地の主要地点からの距離、開発面積、販売価格

No.	工業団地名	距離 (km)	面積 (ha)	販売価格 (米ドル/ ㎡)	備考
		ダバオ市 中心部まで	開発面積		
1	アンフロ工業団地 (ANFLO Industrial Estate)	30	63	100～ 120	近代的なコンテナ港まで 300mと至近。レンタル倉庫 あり。
2	イホ工業団地 (Hijo Industrial Estate)	50	64	60	港湾整備中、発電所建設 中。
3	シウダデス・ビジネス ・パーク (Ciudades Business Park)	13	19	140	IT、BPO向けのビジネス・ パーク。

(出所) 各工業団地資料、ヒアリング (2017年2～3月) より三菱東京UFJ銀行国際業務部作成

※土地の販売価格は目安であり、土地の広さや形状で変動するケースがある。

※土地の販売価格は、1米ドル=50ペソで計算。

2. ダバオ市周辺の工業団地

(1) アンフロ工業団地 (ANFLO Industrial Estate)

事業名	アンフロ工業団地 (Anflo Industrial Estate Special Economic Zone) http://damosaland.com/projects/anflo-industrial-estate/
会社名	ANFLO Industrial Estate Corporation
事業形態	フィリピン100% (ANFLOCOR フィリピン民間企業グループ)
操業開始時期	設立: 2004年5月14日、稼動: 2015年10月19日
オフィス住所	Bo. AO Floirendo, Panabo City, Davao del Norte
工業団地住所	Brgy. San Pedro and Brgy. San Vicente, Panabo City, Davao del Norte
担当者	Ricardo F. Lagdaameo, Vice President and Rannel F. Flores, Senior Manager & Project Head rflagdameo@anflocor.com rfflores@anflocor.co 電話+639178192279 / +639173147760
総開発面積	計63ha。
入居に適する業種	製造業(食品加工や中規模製造業)。
工業団地からの距離	商業港 (Davao International Container Terminal) より300m パナボ市より東に3km ダバオ国際空港より北へ28km ダバオ・ササ (Sasa) 公共港より北へ29km ダバオ市より北へ32km タグム(Tagum)市より南へ26km
土地販売価格	4,500～6,000ペソ/㎡。場所により異なる。
地盤	地耐力4.88t/㎡。場所により異なる。海面より4m盛土している。
土地レンタル料	50～60ペソ/月。25年。その後、25年の更新可。
レンタル工場	170ペソ/㎡ (税別)。
管理費	3～5ペソ/月。
電力供給	Davao Light and Power Company。料金: 7.89ペソ/kwH。
ガス	地元事業。
工業用水	地元の水道を利用。料金: 最初の10m ³ まで621.9ペソ/m ³ 。その後、52.5ペソ/m ³ 。供給量: 第一フェーズ1,700m ³ /日。
工業排水処理施設	各工場で一次処理後、団地内の中央排水処理施設を経て放流。
通信	PLDT。
法定最低賃金	340ペソ/日。
入居企業	全4社。

(出所) アンフロ工業団地 (2017年2月) より三菱東京UFJ銀行国際業務部作成

アンフロ工業団地テナントリスト

No.	親会社名	会社名	主要製品	面積
1	—	Del Monte Fresh Produce Phils., Inc	果物用包装資材、プラスチック製の箱	2,000㎡ (賃貸倉庫)
2	—	Phil-Dutch Polymer, Inc.	ポリマー、プラスチック製品	4,457㎡
3	—	Fermon Corporation	食品加工	5,500㎡
4	—	First Panabo Tropical Foods	食品加工、包装	11,733㎡

(出所) アンフロ工業団地 (2017年2月) より三菱東京UFJ銀行国際業務部作成

ダバオ・インターナショナル・コンテナ・ターミナル (DICT。アンフロ工業団地から 300m)

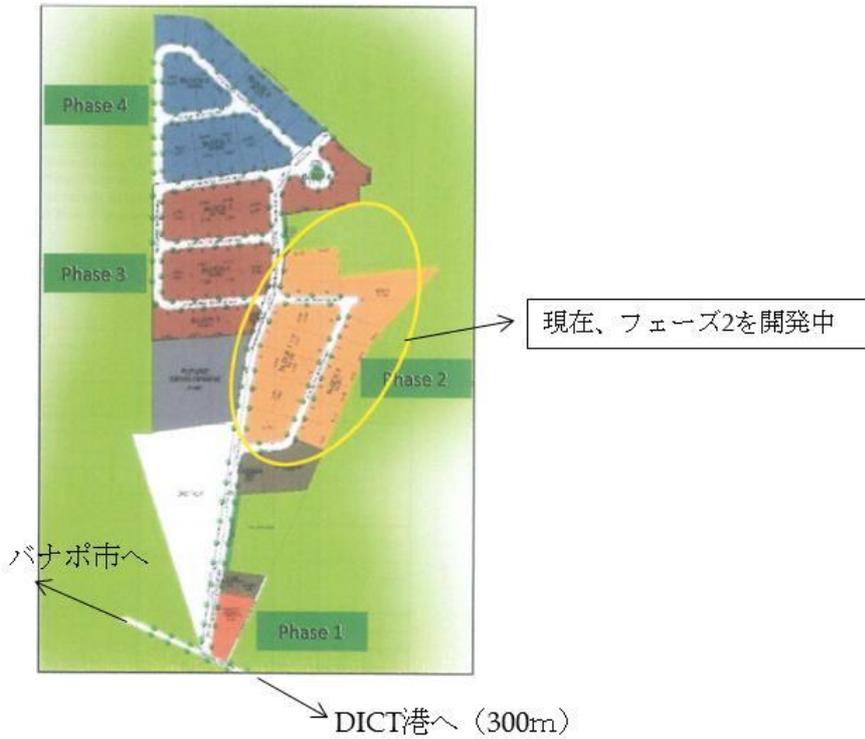


(出所) アンフロ工業団地 (2017年2月) 資料

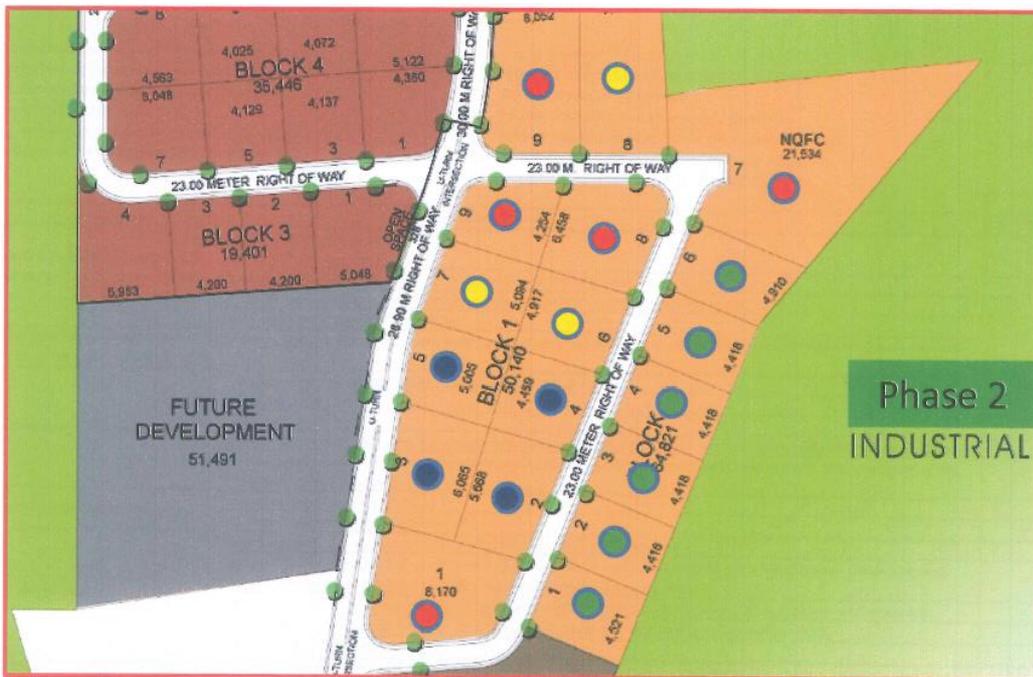
◇ アンフロ工業団地の概要

- アンフロ工業団地は、ダバオ市の北 32km に位置しており、ダバオからの通勤圏にある。300m 先には近代的なコンテナ港 (ダバオ・インターナショナル・コンテナ・ターミナル[DICT]、同じグループが運営) があり、部品・製品の輸出入に便利である。現在、同港はバナナの輸出などに活用されている。

アンフロ工業団地マップ



アンフロ工業団地マップ (フェーズ2部分の拡大図)



(出所) アンフロ工業団地 (2017年2月) 資料より三菱東京UFJ銀行国際業務部作成

◇ アンフロ工業団地担当者のコメント（2017年2月）

▶ ANFLOCOR グループについて

- ✓ 1940年代に設立されたグループ。主な事業はバナナの栽培と輸出。現在は多角化している。主な事業地域はミンダナオ。

▶ 工業団地について

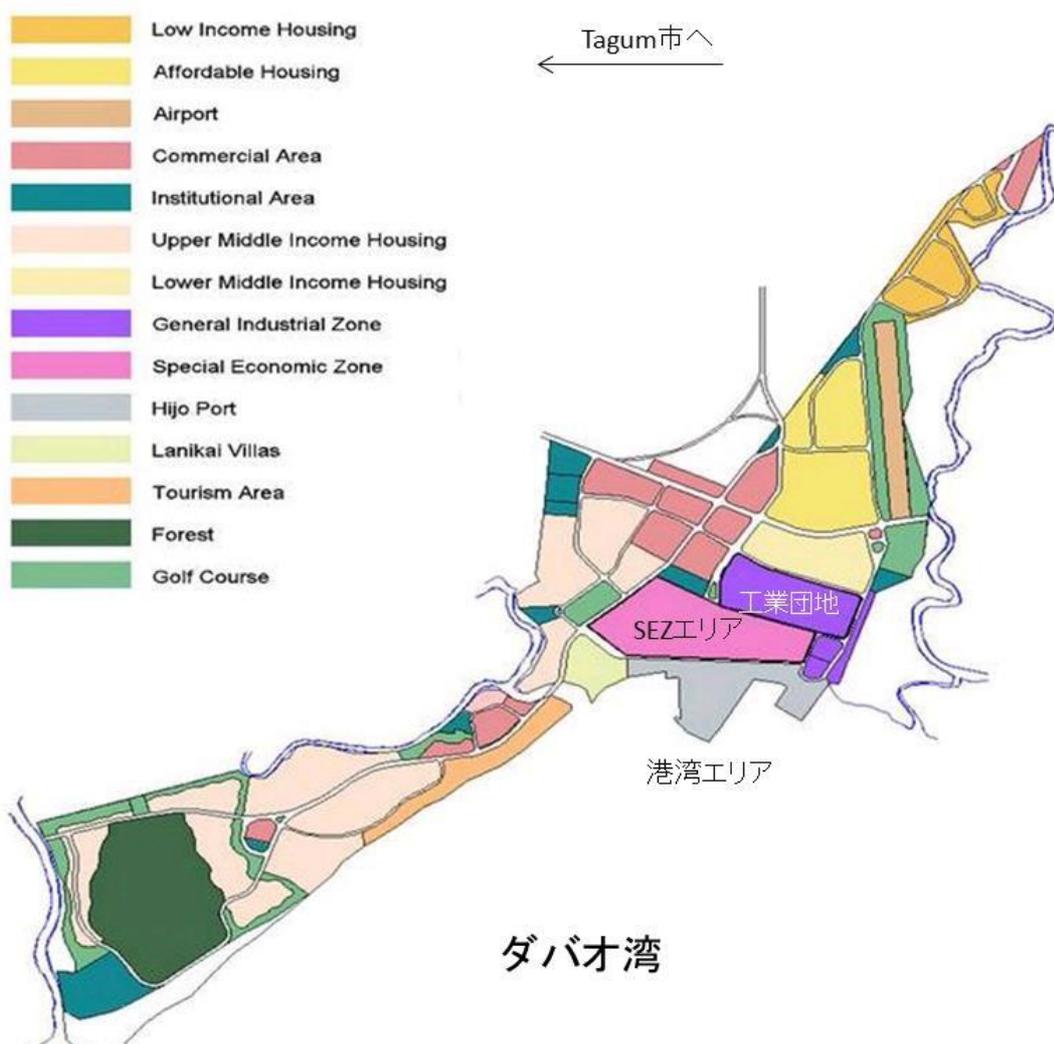
- ✓ 昨年販売を開始した。面積 63ha。既に入居企業がある。第一期開発の 20ha にはレンタル工場も作っている。初入居企業はデルモンテ。2,000 m²のレンタル建屋で操業している。2番目に入居した企業は Philippine Dutch Polymer, Inc.。高機能プラスチック・ポリマーを製造する。工場建設中。
- ✓ 工業団地の販売価格は、5,000～6,000 ペソ/m²。長期リースの場合、60 ペソ/m²/月（5年契約等）。レンタル倉庫は 160～170 ペソ/m²/月。
- ✓ 電力は安定している。電柱整備中、2017年3月完成予定。水も供給。排水処理施設あり。税関は DICT ビルにある。PEZA 事務所も呼ぶ予定。
- ✓ 工業団地内の道路は今年末に全て完成予定。
- ✓ 当団地の特徴は、港から 300m の近さに立地していること。バナポ（Banapo）市に立地しており、ダバオ市中心部まで 30～40 分。ダバオ空港まで 30km である。バナポ市の中心部までは 2km。
- ✓ PEZA の認可を得ている。この承認を得たのは投資家がインセンティブを受けられるという点で大きい。
- ✓ 港は近代的な設備。70 万 TEU/年の能力。コンテナ埠頭が 2 つある。マースク、APL、ACL、RCL など 11 の海運会社が運行している。アセアン、特にインドネシア、マレーシアへの輸出には適している。
- ✓ 2016年にはセブのマクタンで操業する日系企業 15 社が見学に訪れた。ダバオの人件費はセブより低い。また、労働者も多い。
- ✓ バナポ市はダバオ市に近く治安がよい。
- ✓ 当団地は以前ココナッツ畑だった。海拔、約 5m。4m の盛土をしている。

(2) イホ工業団地 (Hijo Industrial Estates)

事業名	イホ工業団地 (Hijo Industrial Estates) http://hijoresources.net/property-development/
会社名	Hijo Resources Corporation
事業形態 (合弁)	フィリピン民間企業Tuasonグループ他
操業開始時期	2007年10月
住所、担当者	Hijo Resources Corporation, Property Development Unit Barangay Madaum, Tagum City, Davao Del Norte, Philippines 8100 電話: +63-84-6550654 Haika Shasta D. Babela氏 (Marketing Officer for Property Development)
総開発面積	計64ha。160haに拡張予定。(エリア全体の開発面積は760ha)
工業団地からの距離	ダバオ市より北へ56km
付帯施設等	住宅、BPO用オフィス、港、レジャー・エリア。
土地販売価格	3,000ペソ/m ² (住宅エリアは4,200~4,500ペソ/m ²)。

(出所) イホ工業団地資料 (2017年2月) より三菱東京UFJ銀行国際業務部作成

イホ工業団地 (Hijo Industrial Estates) 周辺図



(出所) イホ工業団地資料 (2017年2月) より三菱東京UFJ銀行国際業務部作成

◇ イホ工業団地の概要

- ▶ イホ工業団地は、バナナ等のプランテーションで成長した企業が開発した工業団地。PEZA 認定されている。工業団地エリアは 64ha ある。周辺には、港湾が整備されている他、自然を生かしたレジャーエリアも開発中。

◇ イホ工業団地担当者のコメント（2017年2月）

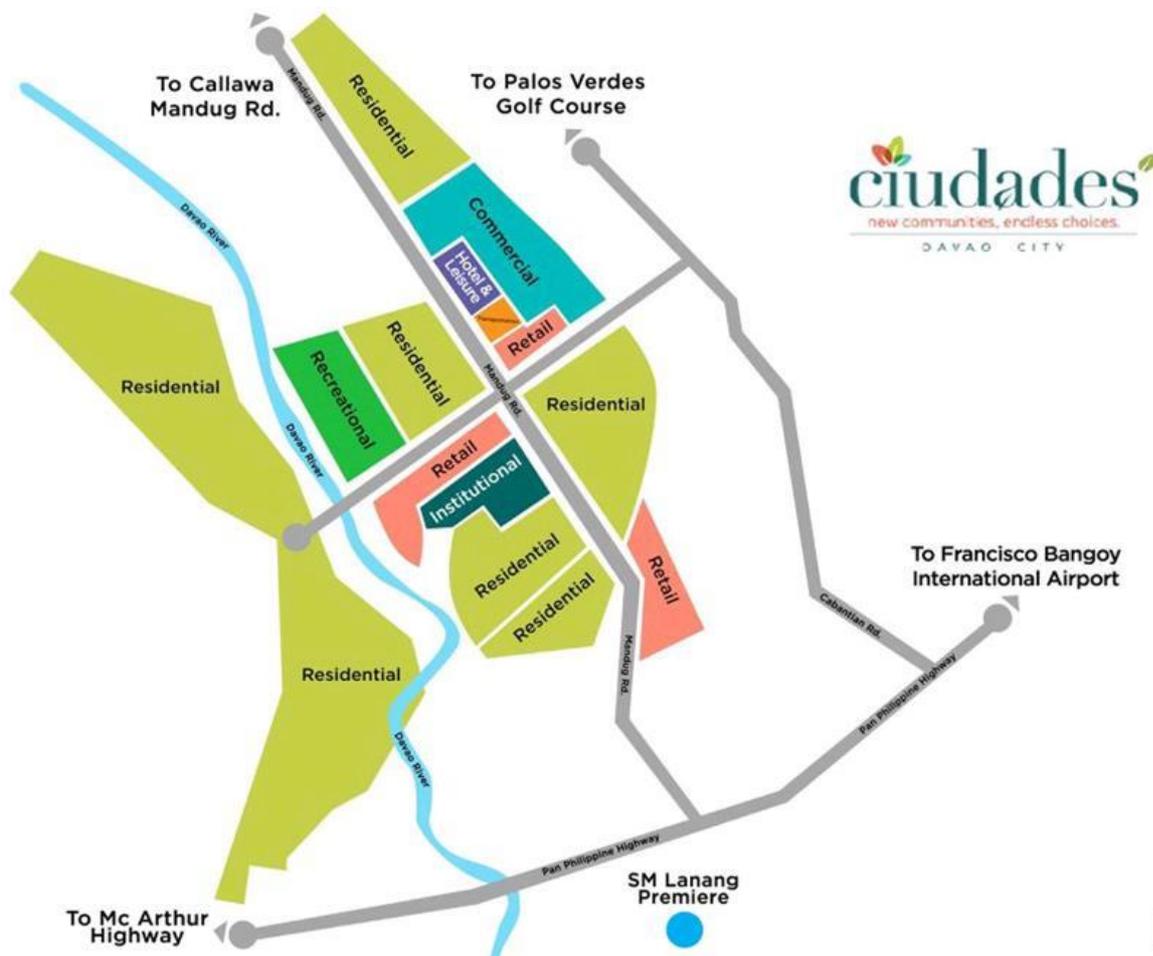
- ▶ Tuason グループの概況
 - ✓ 当グループは 1969 年設立。2,200ha にバナナのプランテーションを行っている。日本への輸出から事業をスタートした。2006 年にはカーギルとも合弁会社を作った。現在、ココナツ等も栽培している。工業団地に加え、港湾、リゾート開発も行っている。
 - ✓ 港湾は 2 バースから開始し、5 年後には 8 バースを整備する計画。コンテナ港として整備する予定であったが、近年、インフラ整備支援が重要となっており、鉄の輸入のため一部機能を変更予定。能力 200 万 TEU。現在の荷の 7 割はバナナである。
 - ✓ 60MW の発電所も建設中。
- ▶ 工業団地について
 - ✓ 760ha にマルチ・コンポーネント・タウンシップとして、工業団地（64ha）、住宅、BPO、港、レジャーエリアを開発していく。地方政府（Tagum 市）と強固なリレーションがあり、開発の支援を受けている。当地の属する Tagum 市は 19,580ha、人口 273,912 人。Tagum 市には、銀行、病院、学校、ショッピングセンターなどがある。
 - ✓ 工業団地は PEZA の認可を得ており、数社が入居内定。現在の 64ha から 160ha に拡張予定。将来、200ha まで拡張可能。1ha から入居可。軽工業入居可。工業団地から国道までは 200m。
 - ✓ 工業団地の価格は 3,000 ペソ/m²。住居エリアの価格は 4,200~4,500 ペソ/m²。
 - ✓ 住宅エリアについては、日系企業で JV を希望する企業があれば歓迎。
 - ✓ 本開発地の海岸線は 4.5km。港は水深 13m。
 - ✓ ダバオ市からの距離は 56km。将来、6 車線の道路が整備される。当地から名古屋までの海上輸送の所要日数は 11 日である。

(3) シウダデス・ビジネス・パーク (Ciudades Business Park)

事業名	シウダデス・ビジネス・パーク (Ciudades Business Park) https://www.torrelorenzo.com/ciudades
会社名	Torre Lorenzo Development Corp.
事業形態	フィリピン100% (フィリピン民間企業グループ)
操業開始時期	—
オフィス住所	First Mindanao Business Park Blk. 5 Lot 4 FMBP, Ciudades Mandug, Buhangin District, Davao City, Philippines
担当者	Ms. Maria Luisa R. Abaya, Marketing Manager mlrabaya@torrelorenzo.com
総開発面積	計200ha。うち19haがビジネス・パーク。
入居に適する業種	IT、BPO。
工業団地からの距離	ダバオ市より13km
付帯施設等	住宅、商業エリア。
土地販売価格	7,000ペソ/㎡。

(出所) シウダデス・ビジネス・パーク資料 (2017年2月) より三菱東京UFJ銀行国際業務部作成

シウダデス・ビジネス・パーク地図



(出所) シウダデス・ビジネス・パーク資料 (2017年2月)

◇ シウダデス・ビジネス・パークの概要

- ▶ シウダデス・ビジネス・パークは、BPO ビジネス、IT 関連企業をターゲットにしたビジネス・パークである。住宅、商業エリアも開発中。ダバオ市内に近いというメリットがある。

◇ シウダデス・ビジネス・パーク担当者のコメント (2017年2月)

- ▶ ビジネス・パークについて
 - ✓ PEZA に IT、BPO のビジネス・パークとして認可を申請中。製造業は対象としていない。
 - ✓ 面積 200ha、うち 19ha をビジネス・パークとして開発。ダバオ市中心部より 13km。
 - ✓ 価格は 7,000 ペソ/m²。セブより安い。また、ダバオ市内のダウンタウンだと 10,000 ~15,000 ペソ/m²なのでそれより安い。
 - ✓ 住宅、商業エリアも開発中。モールも作る。日系企業との JV 歓迎。なお、住宅エリアはほとんど売れてしまった。OFW が帰国後の住まいを確保する目的で土地を購入しているもの。帰国してから家を建てる。住宅は土地 100~150 m²で 120 万ペソ程度。
 - ✓ 国際空港を Callawa に作る計画がある。その場合、当ビジネス・パークは空港に近くなる。

3. 現地進出日系企業のコメント

ダバオ周辺で工場を運営しておられる日系企業 (複数) にダバオの投資環境についてお話を伺った。以下、要旨を記載する。

- ▶ 治安について
 - ✓ ダバオはマニラより治安が良い。流しのタクシーに普通に乗ることができる。ドライバーはメーターを倒し遠回りなどせず普通に走る。マニラでは遠回りされたり、料金を吹っかけられたことがある。この前、ダバオでタクシーの車内に携帯電話を忘れて降りたが、その後、その携帯電話が手元に戻ってきた。
 - ✓ ダバオの治安が良いのはドゥテルテ氏 (現大統領) が過去、(ダバオ市長時代に) 犯罪を取り締まったことが大きい。昨年、ダバオ市内でテロが発生した。テロのリスクはあるので注意が必要。
 - ✓ ミンダナオにはイスラム系 (モロイスラム解放戦線 MILF、アブサヤフ (最近 ISIL と連携)) や共産系 (NPA (最近停戦破棄)) の過激派がいるが、ダバオなどの 3 都市では活動をしていない。日本の外務省も危険度レベルを落としている。治安がよい背景には、ドゥテルテ現大統領がダバオ市長時代に悪人を掃討したことがある。ダバオ市外にはまだ危ないところがある。ダバオ市内にこれら勢力が入らないよう軍が守っている。
 - ✓ NPA は、民間企業をゆすり、攻撃する。農業系企業や鉱山系企業がターゲットとな

っている。2016年9月にダバオ市内で爆破事件があった。本件の犯人はマイナーな反政府勢力。ショッピングセンターなど人の集まるところに行かないことがリスク回避策として重要。

▶ ダバオ市の概観

- ✓ ダバオ市は 2,400 平方キロと神奈川県と同程度の面積でとても広い。フィリピンで 3 番目に大きな市である。識字率はダバオが最も高い。MBA の数もフィリピン No.1。英語を話す人が多い。
- ✓ ダバオ市の近くには活火山があるが、地震はほとんどない。
- ✓ 週末のレストランがにぎわうなど景気は良い印象。渋滞は近年ひどくなっている。通勤に 1 年前の倍の時間がかかるようになっている。車が増えている。高架ができる計画がある。
- ✓ 貧困層が少ないため、街中で物乞いをする人が少ない。バナナがあるので飢え死にすることがない。台風がなく、マニラのように水害がない。ダバオの雨季は 10 月～2 月。昼間は晴れていて、夜にスコールというパターンが多い。昨年、一昨年は少雨で農業が不振だった。

▶ 労働力の確保など

- ✓ 一般工への応募は多く、最低賃金でいくらかでも確保可。専門職、マネージャークラスは確保が難しい。事務職の一般職は確保しやすい。給与は月 2 回現金を手渡し。石炭、米も現物支給している。

▶ 日本人の居住環境

- ✓ 日系企業関係者で家族連れなのは 2 家族のみ。ダバオには日本人学校はない。
- ✓ 日本人駐在員はビレッジという塀に囲まれたエリアの戸建てに住んでいる人が多い。日本人が住めるビレッジは 2～3 ヶ所ある。今まではなかったが、最近コンドミニウムも建設されている。ここに住んでいる外国人や日本人もいる。
- ✓ ダバオ市には在留届ベースで日本人 850 人が居住している。届けを出していない人を入れるとその倍住んでいる。領事館には日本人が 2 名おり、パスポートの更新も可能。ダバオには戦前は日本人が 2 万人住んでいた。ほとんどが沖縄の人。当時はアバカという麻を作っていた。現在、日本人の子孫の集まりとなっている日系人会がある。現在のダバオは農業中心の産業構成である。
- ✓ 日本人が赴任する場合、予防注射はしておいた方がよい。狂犬病、肝炎（A 型、B 型）、破傷風。1 回ではすまないものもあり数ヶ月かかる。医療はダバオ・ドクターホスピタルがある。日本語は通じない。
- ✓ 日本からの直行便はないが、日本を朝出発すれば、（マニラでトランジットして）1 日でダバオに到着する。

▶ インフラ（水道、インターネットなど）

- ✓ 電力については、当地は水力発電中心だが、去年は 3～5 月の雨が少なく、計画停電が多かった上、突然の停電があった。これを自家発電でカバーした。軽油価格が安か

ったので、助かったが、生産の全てをカバーすることはできなかった。昨年火力発電所ができる予定だったが稼動しなかった。

- ✓ 水道は地下水を使用している。特に問題はない。ダバオの水道水はきれいで地元の人
は飲んでいる。これから進出する企業は、地下水は利用できない。
- ✓ インターネット環境は脆弱。ネットは遅く、使えないこともある。また、突発の停電
時は使えない。その際は、携帯のデータ通信は使える。

Ⅲ. 三菱東京UFJ銀行フィリピン拠点のご案内

マニラ支店 : Manila Branch

15th Floor, 6788 Ayala Avenue, Makati City, Philippines

電話番号 : 63-2-886-7371

レポート作成 : 国際業務部 情報室
北村 広明
hiroaki_2_kitamura@mufg.jp

- ・ 本資料は情報提供を唯一の目的としたものであり、金融商品の売買や投資などの勧誘を目的としたものではありません。本資料の中に銀行取引や同取引に関連する記載がある場合、弊行がそれらの取引を応諾したこと、またそれらの取引の実行を推奨することを意味するものではなく、それらの取引の妥当性や、適法性等について保証するものでもありません。
- ・ 本資料の記述は弊行内で作成したものを含め弊行の統一された考えを表明したものではありません。
- ・ 本資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性、信頼性、完全性を保証するものではありません。最終判断はご自身で行っていただきますようお願いいたします。本資料に基づく投資決定、経営上の判断、その他全ての行為によって如何なる損害を受けた場合にも、弊行ならびに原資料提供者は一切の責任を負いません。実際の適用につきましては、別途、公認会計士、税理士、弁護士にご確認いただきますようお願いいたします。
- ・ 本資料の知的財産権は全て原資料提供者または株式会社三菱東京UFJ銀行に帰属します。本資料の本文の一部または全部について、第三者への開示および複製、販売、その他如何なる方法においても、第三者への提供を禁じます。
- ・ 本資料の内容は予告なく変更される場合があります。

フィリピン投資環境レポート
ダバオ編：パート1 付録
ダバオ市周辺工業団地マップ
©三菱東京UFJ銀行国際業務部
2017年3月 禁転載

